

【論 説】

英国における 外国人労働者と海外直接投資

熊 迫 真 一

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
3. データと分析方法
4. 結果とその解釈
5. むすびにかえて

1. はじめに

2016年6月23日は英国にとって歴史的な一日となった。国民投票によって、英国が欧州連合（EU）から離脱する事が選択されたのである。筆者は在外研究で英国に滞在しており、幸運にもこの歴史的な日をロンドンで迎えることができた。国民投票の1ヶ月前あたりから、残留派と離脱派の双方のキャンペーンは加熱していたが、少なくとも私が生活していたエリアでは、離脱派が勝利するような雰囲気は感じられなかった。実際、テレビなどのメディアも、僅差ではあっても残留派が勝利すると予想していたし、街中のブックメーカーも、残留派の勝利を想定していた。投票日当日にも、離脱派のリーダーがインタビューに答えて、善戦したが敗れたようだという主旨の発言をしたように記憶している。それが、投票日の夜に選挙速報を見ていて、時間の経過とともに離脱派が優勢となり、大変驚いた。

なぜ、大方の予想を裏切り離脱派が勝ったのであろうか。その要因はいくつか挙げることが出来るだろうが、私は数多く流入している労働移民に対す

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

る抵抗感が、予想以上に大きかったのではないかと考えている。

離脱派の超党派組織“Vote Leave”が国民投票に際して主張していた主たる内容は以下の3点にまとめられる¹⁾。

- ① EUへ多額の拠出金を支出するのをやめて、それを自国の国営医療サービス（National Health Service, NHS）等に使えるようにする。
- ② EUの規定によって移民を受け入れるのではなく、誰を入国させ誰を拒否するかを自ら決定できるようにする。
- ③ EUの規制から独立し、我々の法律は自分たちが選んだ人間によって作られるようにする。

社会保障にかかる費用の負担感がつのる中で²⁾、流入してきた移民にかかっている社会保障費は過大であると感じている国民は相当数にのぼっているのかもしれない。ましてや、EU本部の決定に基づいて、シリア等からの難民受け入れが求められるようになるとしたら、EU残留は負担が過度に大きいと国民に感じさせるかもしれない。

もっとも、労働移民の受け入れは、経済にはプラスの影響があるはずである。本稿では、先行研究を踏まえ、外国人労働者が海外直接投資に与える影響について、英国のデータを用いて検証する。

注

- 1) 詳しくはVote Leaveのホームページ参照のこと。
- 2) 財政難でNHSで働く医療従事者の労働条件が悪化し、私がロンドン滞在中も、研修医によるストライキが起っていた。

2. 先行研究

国際貿易の領域において、貿易額の大きさの決定要因を探る実証研究では、グラビティ・モデルが多く採用されてきた。これはニュートンの万有引力の法則¹⁾を模したもので、二国間の経済規模が大きくなるほど貿易量も多

くなり、地理的な距離が離れているほど少なくなるということを反映している。

国際的な労働移動と海外直接投資との関係については、友原（2015）が実証研究のサーベイをおこなっている。友原（2015）によれば、欧米における実証研究を整理した結果、“移民流入と海外直接投資の流出”および“移民流出と海外直接投資の流入”については、補完的であるとされている。すなわち、移民を多く受け入れていれば、その移民の送り出し国への海外直接投資が増えるということの意味する。また、その傾向は高等教育を受けた移民の方が強いとされる。一方で、“移民流入と海外直接投資の流入”についても補完的であるとされる。すなわち、高等教育を受けた移民を多く受け入れている国では、移民の民族的なネットワーク効果からか、海外直接投資の流入も多くみられるというのである。

Gheasi et al（2013）は、英国への移民の流入が、英国への海外直接投資の流入もしくは英国からの海外直接投資の流出へ与える影響について、グラビティ・モデルを用いて検討している。Gheasi et al（2013）は流入する移民の教育レベルによる違いに関心があり、高学歴移民数と低学歴移民数に分けた分析を行っている。その結果、高学歴移民のストックは、海外直接投資の流入・流出の双方に対して、ポジティブな影響を持っていると結論づけている。

なるほど、海外直接投資には情報の非対称性に伴うリスクが大きく、移民が情報を中継する役割を果たすことによって、情報の非対称性のリスクを減らすとすれば、移民の存在が海外直接投資にプラスの影響を与えるという説明には納得できる。ただし、学歴がポイントなのではなく、就業しているかどうかポイントなのではないだろうか。すなわち、高学歴の移民がより情報を中継する役割を果たすというのではなくて、実際に働いていてビジネスの情報に接している就業者なのかどうかの方が重要なのではないか。国際人的資源管理論では、多国籍企業における現地子会社は現地のビジネス慣行や法律・規則・文化の影響を受け、人的資源管理システムに影響を与えるとき

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

れている²⁾。ここで言う現地のビジネス慣行や法律・規則・文化などが、海外直接投資のリスクにつながっていると思われるが、このような情報は現地の出身であれば誰でも把握できるというものではなく、仕事を通じて把握するものであるように考えられる。もしそうだとすれば、高学歴移民数よりも就業状態にある移民数の方が、着目すべき変数ということになるだろう。もし高学歴移民数の影響が大きく表れていたとしたら、高学歴ほど就業確率が高いことを反映しているとも考えられる。

以上を踏まえ、本稿では海外直接投資の流出と流入に対して、移民就業者数がどのように影響しているのかを移民数の影響との比較によって検討する。

注

1)
$$F = G \frac{Mm}{r^2}$$

但し、F：2つの物質間に働く万有引力、G：万有引力定数、M,m：2つの物質の質量、r：2つの物質の距離

- 2) 白木（2006）は、多国籍企業の現地子会社は「ローカル同形化」「コーポレート同形化」「クロス・ナショナル同形化」「グローバル・インターコーポレート同形化」の4つの力が働くとしている。

3. 分析方法とデータ

(1) 分析方法

グラビティ・モデルは、先述の通り、二国間の経済規模が大きくなるほど貿易量も多くなり、地理的な距離が離れているほど少なくなるということを反映していて、基本的には以下のような式で表現される。

$$F_{ij} = A \frac{M_i^{\alpha_1} M_j^{\alpha_2}}{D_{ij}^{\alpha_2}} \quad (1)$$

ここで、 F_{ij} は2国間（i国とj国）の貿易量、Mは各国の経済規模、 D_{ij} は2国間の距離、Aは定数である。

推計にあたっては、この（1）式の対数をとることによって線形化されたものが用いられる。

$$\ln F_{ij} = B + \beta_1 \ln M_i + \beta_2 \ln M_j + \beta_3 \ln D_{ij} \quad (2)$$

ここで B は定数、 β は係数である。

このグラビティ・モデルは、国際的な労働移動の影響を検証する実証研究にも多く用いられている。労働移民の受け入れや送り出しが、当事国同士の貿易量にどのような影響を与えるのかというものであるが、その後、それが発展して海外直接投資に与える影響にも用いられるようになって¹⁾いる。

本稿でもこれらの先行研究にならい、被説明変数には海外直接投資を用い、説明変数には人口、1人あたりGDP、距離に加えて、移民就業者ストックを用いた場合と移民ストックを用いた場合とで比較する。なお、移民就業者ストックと移民ストックについては、情報の非対称性の解消にかかる時間を見る上で、被説明変数のデータ年の1期前、2期前、3期前のものを用いる。

なお、グラビティ・モデルによって労働移動が海外直接投資に与える影響を推計する場合、内生性の問題が存在すると考えられる。すなわち、説明変数である労働移民数が、外生変数ではなく内生変数になっているというものである。Gheasi et al (2013) はこの問題に対処するため、最小二乗法 (OLS) での推計結果に加えて2段階最小二乗法 (2SLS) での推計結果も報告している。本稿もそれにならい、最小二乗法と2段階最小二乗法の双方を用いることにする。操作変数の選択にあたっては、まずは Gheasi et al (2013) 同様、Javorcik et al (2011) にならって、パスポートコストを採用した。Javorcik et al (2011) の指摘するように、パスポートの取得に高い費用がかかれば、とりわけ貧しい国では移民に対する障壁として機能すると考えられる。パスポートの取得にかかる費用をその国の所得水準で標準化したものを用いる。次に、中等教育進学率を用いる。これは、労働移民として受け入れられるのに通常必要とされる程度の教育を受けている割合を意味する。また、政府の市民サービスの質などを示した指標（以下、“政府効率性”

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

指標と表現する）を用いる。パスポート申請などにおいて、この効率が悪ければ、移民に対する障壁として機能すると考えられる。

(2) データ

英国に対する国別海外直接投資フロー（Inward）と英国からの国別海外直接投資フロー（Outward）は、OECD International Direct Investment Statistics 2014のデータを用いている。対象期間は2008年～2012年の5年間である。

英国における出身国別移民ストック²⁾は、Office for National Statisticsがホームページにて公開しているデータセットを利用した。また、出身国別移民就業者のストックについては、先の移民ストックに出身国別の英国での就業率を乗じた。この英国での出身国別就業率は利用可能なデータを見出すことが出来なかったため、Database on Immigrants in OECD countries (DIOC)を用いて、出身国別の就業者数を状態が判明している当該出身国移民総数で割って算出した³⁾。

人口ならびに1人あたりGDP⁴⁾は、世界銀行のWorld Development Indicatorsを利用した。

当該国間の距離については、CEP II⁵⁾がホームページ上で公開しているデータベースGeoDistを利用した。

パスポートコストについては、Mckenzie (2007)が世界各国のパスポート取得費用とその国民所得に占める割合を報告しており、それを利用した。

中等教育進学率⁶⁾については、世界銀行のWorld Development Indicatorsを利用した。

政府効率性⁷⁾については、Kaufmann et al (2009)を参照し、Worldwide Governance Indicatorsのホームページに公開されているアップデートデータを利用した。

注

- 1) 友原（2015）によれば、このテーマは2000年代の後半からいくつもの議論がなされるようになったとされる。
- 2) “Overseas-born population in the United Kingdom, excluding some residents in communal establishments, by sex, by country of birth”
なお、この対象となっている国は、主たる60か国に限定されている。
- 3) このデータは2000年の調査に基づいている。
- 4) GDP per capita (constant 2010 US\$)
- 5) CEP II は1978年に設立されたフランスの国際経済に関する研究所である。
- 6) Gross enrolment ratio, secondary, both sexes (%)
- 7) Government Effectiveness

4. 結果とその解釈

(1) OLS での結果

表1-1は英国の対内直接投資への移民就業者ストックの与える影響を、表1-2は英国の対内直接投資への移民就業者ストックの与える影響を、それぞれ示したものである。表1-1の移民就業者ストックの係数をみると、いずれのモデルでも統計的に有意にプラスの値となっている。すなわち、英国国内に移民就業者が多いほど、当該移民の送り出し国からの投資を呼び込むということを表している。その効果が対内直接投資に表れるタイミングについては、1期前が最も高く、2期前と3期前では係数の値は大差がなかったことから、情報伝達のタイムラグはあまり無いのかもしれない。それ以外の変数、すなわち人口、1人あたりGDP、当該国間の距離については、いずれも想定された通りの符号で、統計的に有意であった。表1-2の移民ストックの係数をみると、いずれのモデルでも統計的に有意にプラスの値となっている。すなわち、英国国内に移民が多いほど、当該移民の送り出し国からの投資を呼び込むということを表している。その効果が表れるタイミングとしては、3期前が最も高く、次いで2期前、1期前となっていることから、その効果が表れるのに3年もしくはそれ以上のタイムラグがあるように見える。

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

表 1-1 英国の対内直接投資への移民就業者ストックの与える影響（OLS）

	①	②	③
移民就業者ストック (1 期前)	0.9074508 (0.1528689) ***		
移民就業者ストック (2 期前)		0.6403671 (0.2219532) ***	
移民就業者ストック (3 期前)			0.6865433 (0.2183823) ***
人口	0.9074508 (0.1528689) ***	0.8875248 (0.1541676) ***	0.8953414 (0.1515571) ***
1 人あたり GDP	2.198576 (0.2547815) ***	2.191125 (0.257447) ***	2.18557 (0.2546048) ***
距離	-0.4103729 (0.1816507) **	-0.4566456 (0.1837579) **	-0.4155554 (0.1807054) **
定数項	-31.27996 (4.925873) ***	-30.66915 (4.959932) ***	-31.29168 (4.9109) ***
サンプルサイズ	101	101	101
修正 R-square	0.5225	0.5248	0.5239
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

表 1-2 英国の対内直接投資への移民ストックの与える影響（OLS）

	①	②	③
移民ストック (1 期前)	0.5916349 (0.2378809) **		
移民ストック (2 期前)		0.6140799 (0.240067) **	
移民ストック (3 期前)			0.6863884 (0.2362157) ***
人口	0.9069483 (0.1554381) ***	0.8931711 (0.1571175) ***	0.8934391 (0.1542166) ***
1 人あたり GDP	2.233172 (0.2577441) ***	2.225274 (0.2608104) ***	2.222694 (0.2576697) ***
距離	-0.3959377 (0.1835584) **	-0.4412872 (0.1861261) **	-0.3988027 (0.1826868) **
定数項	-36.13119 (5.409716) ***	-35.68389 (5.4237) ***	-36.85336 (5.391156) ***
サンプルサイズ	101	101	101
修正 R-square	0.5171	0.5162	0.5171
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

これは移民が就業者となるまでのタイムラグを反映しているのかもしれない。それ以外の変数、すなわち人口、1人あたりGDP、当該国間の距離については、いずれも想定された通りの符号で、統計的に有意であった。表1-1と表1-2のそれぞれ対応するモデルを比較してみると、いずれのモデルでも表1-1の説明力も高く、移民就業者ストックと移民ストックの対応する係数の比較でも移民就業者ストックの方が高いことから、モデルとしては、移民就業者ストックを用いた方が良くと解釈できる。

次に対外直接投資への影響を見る。表1-3は英国の対外直接投資への移民就業者ストックの与える影響を、表1-4は英国の対外直接投資への移民ストックの与える影響を表したものである。表1-3の移民就業者ストックの係数をみると、いずれのモデルでも統計的に有意にプラスの値となっている。すなわち、英国国内に移民就業者が多いほど、当該移民の送り出し国に対する投資が大きくなるということを表している。その効果が対外直接投資に表れるタイミングについては、3期前が最も高く、次いで2期前、1期前となっていることから、その効果が表れるのに3年もしくはそれ以上のタイムラグがあるように見える。これは、英国国内の移民就業者の人的ネットワークが送り出し国への投資にプラスの効果をあげているとすると、送り出し国での人的ネットワーク形成にかかる時間差を表しているのかもしれない。それ以外の変数では、人口ならびに1人あたりGDPについては、想定された通りの符号で、統計的に有意であったものの、当該国間の距離については、統計的に有意ではなかった。先進国が直接投資をするにあたり、その距離の影響は、小さくなくなっているのかもしれない。表1-4の移民ストックの係数をみると、モデル①は10%基準でなければ有意ではないものの他は5%基準で有意にプラスの値となっている。すなわち、英国国内に移民が多いほど、当該移民の送り出し国への投資を増やしているということを表している。その効果が表れるタイミングとしては、3期前が最も高く、次いで2期前、1期前となっていることから、その効果が表れるのに3年もしくはそれ以上のタイムラグがあるように見える。移民就業者の場合と同様、現地での人的ネッ

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

表 1-3 英国の対外直接投資への移民就業者ストックの与える影響（OLS）

	①	②	③
移民就業者ストック (1 期前)	0.3145881 (0.1271687) **		
移民就業者ストック (2 期前)		0.4229156 (0.1254645) ***	
移民就業者ストック (3 期前)			0.4727121 (0.1241034) ***
人口	0.5979882 (0.0947634) ***	0.5913043 (0.0935682) ***	0.5811917 (0.0959009) ***
1 人あたり GDP	1.019322 (0.1394523) ***	1.03629 (0.1337181) ***	1.077928 (0.1344809) ***
距離	-0.0454194 (0.1108592)	-0.0301093 (0.1087383)	-0.0410235 (0.1102704)
定数項	-14.81154 (2.706174) ***	-15.49065 (2.599122) ***	-15.93308 (2.635875) ***
サンプルサイズ	115	116	119
修正 R-square	0.4233	0.4751	0.5016
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

表 1-4 英国の対外直接投資への移民ストックの与える影響（OLS）

	①	②	③
移民ストック (1 期前)	0.2674762 (0.1400119) *		
移民ストック (2 期前)		0.3819288 (0.1363357) **	
移民ストック (3 期前)			0.45504 (0.1352352) ***
人口	0.6058972 (0.098078) ***	0.5959627 (0.0972528) ***	0.5773296 (0.0996193) ***
1 人あたり GDP	1.036144 (0.1406654) ***	1.064247 (0.1349183) ***	1.104052 (0.1353911) ***
距離	-0.038376 (0.1130055)	-0.0136321 (0.1108107)	-0.0224008 (0.1121236)
定数項	-16.98455 (2.904902) ***	-18.65959 (2.71756) ***	-19.59514 (2.707936) ***
サンプルサイズ	115	116	119
修正 R-square	0.4104	0.4591	0.4885
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

トワーク形成のためのタイムラグを反映しているのではないだろうか。それ以外の変数では、表 1-3 の場合と同様、人口ならびに 1 人あたり GDP については、想定された通りの符号で、統計的に有意であったものの、当該国間の距離については、統計的に有意ではなかった。表 1-3 と表 1-4 のそれぞれ対応するモデルを比較してみると、いずれも移民就業者ストックの方が移民ストックよりも係数の値が有意に大きくなっており、モデルの説明力も高い。対内直接投資と同様に対外直接投資においても、当該国からの移民ストックはプラスに働いているが、それよりも当該国からの就業者ストックの方がよりプラスに影響していると考えられる。これは、移民送り出し国への人的ネットワーク形成にあたり、就業者の方がより効果的であると表していると解釈できよう。

(2) 2SLS での結果

本稿のモデルでは、移民就業者ストックならびに移民ストックが海外直接投資に与える影響を推計しているが、他方で海外直接投資が移民就業者ストックならびに移民ストックに影響を与えている可能性がある。そのため先述のとおり操作変数を用いて 2 段階最小二乗法による推計を行う。

表 2-1 は英国の対内直接投資への移民就業者ストックの与える影響を、表 2-2 は英国の対内直接投資への移民ストックの与える影響を、それぞれ示したものである。表 2-1 の第 2 段階での移民就業者ストックの係数を見ると、いずれも統計的に有意にプラスの値となっている。これは英国国内に移民就業者が多いほど、当該移民の送り出し国からの投資を呼び込むということを表している。その効果が対内直接投資に表れるタイミングについては、値としては 3 期前、2 期前、1 期前の順になっているものの、ほぼ同程度と判断できる。それ以外の変数では、人口ならびに 1 人あたり GDP については、想定された通りの符号で、統計的に有意であったものの、当該国間の距離については、統計的に有意ではなかった。一方、表 2-2 については、第 2 段階での移民ストックの係数については、いずれのモデルでも統計的に有意にプ

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

表 2-1 英国の対内直接投資への移民就業者ストックの与える影響（2SLS）

	①	②	③
First Stage			
移民就業者ストック（1 期前）	2.340279 (0.6474673) ***		
移民就業者ストック（2 期前）		2.364401 (0.5961928) ***	
移民就業者ストック（3 期前）			2.482065 (0.6584756) ***
人口	0.4758036 (0.2390183) **	0.4633078 (0.2302984) **	0.4729399 (0.2372421) **
1 人あたり GDP	2.32966 (0.3223231) ***	2.270939 (0.3202027) ***	2.309674 (0.3260777) ***
距離	-0.266185 (0.2313746)	-0.3516817 (0.2290236)	-0.293949 (0.2318013)
定数項	-32.89196 (6.173944) ***	-31.5077 (6.137367) ***	-33.06299 (6.245689) ***
サンプルサイズ	100	100	100
P>χ-square	0	0	0
R-square	0.2483	0.2662	0.229
タイムダミー	Yes	Yes	Yes
Second Stage			
パスポートコスト	-0.0686412 (0.1039845)	-0.0689295 (0.1017988)	-0.0696637 (0.1045267)
中等教育進学率	0.0075921 (0.0031893) **	0.0072907 (0.002957) **	0.0062887 (0.0031692) *
政府効率性	0.7741005 (0.2032832) ***	0.8109338 (0.1943) ***	0.809679 (0.203469) ***
修正 R-square	0.2799	0.303	0.2856
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

ラスとなっている。しかしながら表 2-2 は R2 の値が極めて低く、モデルの説明力がほとんどない状態であるため、移民就業者ストックを用いたモデルの方が望ましいようである。

表 2-3 は英国の対外直接投資への移民就業者ストックの与える影響を、表 2-4 は英国の対外直接投資への移民ストックの与える影響を、それぞれ示したものである。表 2-3 の第 2 段階の移民就業者ストックの係数をみると、い

表 2-2 英国の対内直接投資への移民ストックの与える影響（2SLS）

	①	②	③
First Stage	移民ストック（1期前）	移民ストック（2期前）	移民ストック（3期前）
パスポートコスト	-0.0200774 (0.100174)	-0.0144951 (0.0995757)	-0.0167767 (0.1010481)
中等教育進学率	0.0058901 (0.0030724) *	0.005319 (0.0028924) *	0.0045945 (0.0030637)
政府効率性	0.5658212 (0.1958338) ***	0.5983893 (0.1900568) ***	0.5997035 (0.1966977) ***
サンプルサイズ	100	100	100
修正 R-square	0.2791	0.2805	0.2753
タイムダミー	Yes	Yes	Yes
Second Stage			
移民ストック （1期前）	3.161983 (1.01096) ***		
移民ストック （2期前）		3.273319 (0.9659609) ***	
移民ストック （3期前）			3.423142 (1.064822) ***
人口	0.2678575 (0.3255897)	0.2360665 (0.319643)	0.2425358 (0.3324523)
1人あたり GDP	2.582496 (0.3973714) ***	2.508798 (0.3966931) ***	2.565829 (0.4105328) ***
距離	-0.1203202 (0.2840652)	-0.205861 (0.2841196)	-0.1465883 (0.2899249)
定数項	-59.65308 (11.75443) ***	-58.8373 (11.21091) ***	-61.801 (12.28195) ***
サンプルサイズ	100	100	100
P > χ -square	0	0	0
R-square	—	—	—
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

ずれのモデルでも統計的に有意にプラスとなっている。すなわち、英国国内に移民就業者が多いほど、当該移民の送り出し国に対する投資が大きくなるということを表している。その効果が対外直接投資に表れるタイミングについては、3期前が最も高く、次いで1期前、2期前となっており、先の OLS での結果と異なる。これを解釈するとすれば、移民の送り出し国での人的ネットワーク形成に3年程度（もしくはそれ以上）の時間が必要となる一方

英国における外国人労働者と海外直接投資（熊迫）

表 2-3 英国の対外直接投資への移民就業者ストックの与える影響（2SLS）

	①	②	③
First Stage			
移民就業者ストック（1 期前）		移民就業者ストック（2 期前）	移民就業者ストック（3 期前）
パスポートコスト	-0.0528947 (0.074453)	-0.0709385 (0.0739424)	-0.0491616 (0.75774)
中等教育進学率	0.0072004 (0.0034036) **	0.0060843 (0.0031715) *	0.0050193 (0.0033801)
政府効率性	0.9009221 (0.1930935) ***	0.8631637 (0.1873434) ***	0.9587332 (0.1971733) ***
サンプルサイズ	115	116	119
修正 R-square	0.2751	0.2919	0.3026
タイムダミー	Yes	Yes	Yes
Second Stage			
移民就業者ストック（1 期前）	0.885358 (0.3005613) ***		
移民就業者ストック（2 期前）		0.7619354 (0.28052) ***	
移民就業者ストック（3 期前）			0.9757444 (0.2919602) ***
人口	0.4417288 (0.1236591) ***	0.4903978 (0.1192645) ***	0.4240837 (0.1284128) ***
1 人あたり GDP	0.9676664 (0.1480749) ***	0.9778094 (0.1396377) ***	0.9672662 (0.1501585) ***
距離	0.0050387 (0.1185249)	-0.0200359 (0.1081973)	-0.02263 (0.1140649)
定数項	-14.27351 (2.845628) ***	-14.59482 (2.664144) ***	-14.24505 (2.856085) ***
サンプルサイズ	115	116	119
P>χ-square	0	0	0
R-square	0.3619	0.4783	0.466
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

で、英国におけるビジネスの最新情報の発信ソースという点で1期前の就業者数が強く影響しているのではなかろうか。それ以外の変数では、人口ならびに1人あたりGDPについては、想定された通りの符号で、統計的に有意であったものの、当該国間の距離については、統計的に有意ではなかった。表2-4の第2段階の移民ストックの係数をみると、いずれのモデルでも統計的に有意にプラスとなっている。これは、英国国内に移民が多いほど、当該

表 2-4 英国の対外直接投資への移民ストックの与える影響（2SLS）

	①	②	③
First Stage	移民ストック（1期前）	移民ストック（2期前）	移民ストック（3期前）
パスポートコスト	-0.0056699 (0.0703226)	-0.0203898 (0.071669)	-0.0002537 (0.0723298)
中等教育進学率	0.0055149 (0.0032147) *	0.0041235 (0.003074)	0.003574 (0.0032265)
政府効率性	0.7303002 (0.1823815) ***	0.6888918 (0.1815836) ***	0.7918921 (0.188211) ***
サンプルサイズ	115	116	119
修正 R-square	0.2896	0.2858	0.3095
タイムダミー	Yes	Yes	Yes
Second Stage			
移民ストック （1期前）	1.143471 (0.4060313) ***		
移民ストック （2期前）		1.027354 (0.3907797) ***	
移民ストック （3期前）			1.229884 (0.3849558) ***
人口	0.3497379 (0.1553139) **	0.3911136 (0.1544206) **	0.3193539 (0.1609493) **
1人あたり GDP	0.9979937 (0.1588684) ***	0.9882096 (0.1487924) ***	0.971458 (0.1603059) ***
距離	0.0757728 (0.1360034)	0.0354487 (0.1202574)	0.0387428 (0.1259966)
定数項	-23.13003 (4.188862) ***	-22.12632 (3.470791) ***	-23.12978 (3.380569) ***
サンプルサイズ	115	116	119
P > χ -square	0	0	0
R-square	0.2493	0.3913	0.3808
タイムダミー	Yes	Yes	Yes

*** : 1%, ** : 5%, * : 10%

移民の送り出し国に対する投資が大きくなるということを表している。その効果が対外直接投資に表れるタイミングについては、3期前が最も高く、次いで1期前、2期前となっており、表2-3と同様の結果になっている。しかしながら、表2-3と表2-4の対応するモデルのR2を比較すると、モデル全体の説明力としてはいずれも表2-3の方が高いことから、移民就業者ストックを用いたモデルの方が望ましいと考えられる。

5. むすびにかえて

本稿では、英国での外国人労働者が海外直接投資の流出や流入にどのような影響を与えているのかを、グラビティ・モデルを用いて検証した。検証にあたっては、先行研究では移民が情報の非対称性によるリスクを軽減するという論理構成の中で移民の学歴を重視しているのに対し、実際に仕事に就いているのかどうかを重視すべきなのではないかという問題意識から、移民就業者ストックと移民ストックの影響度合いの比較を行った。すると、すべてのモデルで、移民ストックよりも移民就業者ストックの方が、海外直接投資の流入と流出の双方に対してより大きく影響しているという結果になり、仕事に就いている人数が重要であるという事が示された。

もっとも、本稿で残されている課題は多い。まず、操作変数に関して、もっと説明力の高いものを見つけるべきであるという点が挙げられる。パスポートコスト¹⁾については、どのモデルでも統計的に有意にはならなかった。先行研究にならって選択した変数であったが、見直す必要があるのかもしれない。また、収集できたデータの制約より、先行研究とのより厳密な比較は出来なかった。すなわち、移民就業者ストックや移民ストック以外の変数に関して、全く同じ条件で推計できれば、より正確に比較できよう。これらについては、今後の課題としたい。

注

- 1) 正確には、パスポートコストが当該国の1人あたり国民所得に占める割合を表している。

参考文献

Gheasi, Masood., Nijkamp, Peter., Rietveld, Piet., “Migration and foreign direct investment: education matters”, *Annals of Regional Science*, Vol. 51 Issue 1, 2013

Javorcik, Beata S., Özden, Çağlar., Spatareanu, Mariana., Neagu, Cristina., “Migrant networks and foreign direct investment”, *Journal of Development Economics*, 94, 2011

Kaufmann, Daniel., Kraay, Aart., Mastruzzi, Massimo., “Governance Matters VIII: Aggregate And Individual Governance Indicators 1996–2008”, *World Bank Policy Research Working Paper No 4978*, 2009

Mckenzie, David., “Paper walls are easier to tear down: P6assport costs and legal barriers to emigration”, *WORLD DEVELOPMENT*, 35, 2007

白木三秀（2006）, 『国際人的資源管理の比較分析-「多国籍内部労働市場」の視点から』, 有斐閣

田中鮎夢（2015）, 『新々貿易理論とは何か—企業の異質性と 21 世紀の国際経済』, ミネルヴァ書房

友原章典（2015）, 「国際的な資本移動と労働移動の関係—欧米における実証研究のサーベイ」, 『日本労働研究雑誌』 No. 662

〈インターネット〉

Database on Immigrants in OECD countries (DIOC), <http://www.oecd.org/els/mig/databaseonimmigrantsinoecdcountriesdioc.htm>, 2016 年 10 月 5 日アクセス

GeoDist, http://www.cepii.fr/CEPII/en/bdd_modele/presentation.asp?id=6, 2016 年 10 月 28 日アクセス

OECD International Direct Investment Statistics 2014, http://www.oecd-ilibrary.org/finance-and-investment/oecd-international-direct-investment-statistics_2307437x, 2016 年 10 月 14 日アクセス

Office for National Statistics, <https://www.ons.gov.uk/peoplepopulationandcommunity/populationandmigration/internationalmigration/datasets/populationoftheunitedkingdombycountryofbirthandnationality>, 2016 年 10 月 5 日アクセス

Vote Leave, <http://www.voteleavetakecontrol.org/>, 2016 年 12 月 5 日アクセス

World Development Indicators, <http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators>, 2016 年 10 月 5 日アクセス

Worldwide Governance Indicators, <http://info.worldbank.org/governance/wgi/index.aspx#home>, 2016 年 10 月 28 日アクセス

『平成 27 年版労働経済の分析』, 厚生労働省 Web 公開版, <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/15/15-1.html>, 2016 年 6 月 17 日アクセス